

国際事業の展開指針は？

豊かな社会の実現に貢献

NIIPPOは、中期経営ビジョン(2018-30年度)の取り組みの一つとして、事業のグローバルな展開を盛り込んでいる。和田千弘海外事業本部長は、国際事業の展開指針として「国それぞれで状況は異なるが、われわれの技術をタイムリーに提供し、事業を通じて豊かな社会の実現に貢献する」ことを掲げる。今後の事業展開などについて聞いた。

そとこが聞きたい

事業展開に当たっては、『安全』の重要性を説き「事故などの発生は、信用を落としてしまつ。絶対に起こしてはならない」と強調する。日本と同じ職長教育の実施や、

現地の言葉による安全教材の活用など、重大災害を起こさないという同社の安全作業五つの誓いを基に、日本と同様にさまざまな取り組みを行っている。

品質確保も重要となる。同社は、企業理念として『わたしたちは 確かなものづくりを通して 豊かな社会の実現

に貢献します』を掲げており、これを基に「手掛ける道路舗装のほとんどがインフラで、税金を基に整備し不特定多数の方が利用するものであり、確かなものづくりを行う」と力を込める。



和田 千弘氏
ちひろ わだ

NIIPPO取締役常務執行役員
海外事業本部長建築事業副本部長

企業理念にある『豊かな社会の実現』のためにも、「各国の状況を見極めて、当社が持っている技術の何がその国を豊かにするのかを念頭に、営業を展開する」方針だ。

海外事業では、アスファルト合材事業、海外テストコーラス事業、ODA(政府開発援助)事業を主に手掛けている。アスファルト合材事業は最も注力するものであり、着眼点はプラントでの再生合材。タイに再生合材プラントを建設し、稼働している。インドネシアも21年度から再生合材

プラントが稼働しており、ベトナムでも事業化に向けて注力している」と語る。

タイでは資本参加、インドネシアでは合弁会社を設立しており、各国で舗装リサイクル技術の普及を進め、インフラ整備に大きく貢献する。併せて、日本の合材工場における、匂い、煙、振動を出さない周辺環境に配慮したノウハウも生かす。

テストコースは、「日本で多くの自動車メーカーなどからご用命をいただいております。海外でも日本と同じようなテストコースをつくりたいという要望に応じている」。対応拠点としてはタイ、インド、中国、北米があり、引き続き技術を提供する。

ODA事業では、「アフリカのタンザニアに拠点を設けており、東アフリカ地域で事業に取り組みたい」と語る。併せて、人材育成の場としても活用する方針だ。

現地での担い手確保も進め

る。「タイでは、現地で技術者を雇用し、日本で教育している。優秀な人材を確保できている。研修を終えて戻ると日本の技術を取得した上に、日本語も堪能となり、現地の会社と資本提携する場合などの接点になってくれる」とし、活躍に期待を寄せる。

また、技能員も技能実習制度によって日本で教育しており、技術と日本語を習得し、技能レベルが上がっている。当社の作業方法などを習得し、活躍してくれている」と笑顔を見せる。

* 1985年早大理工学部土木工学科卒業、同年4月日本舗道(現NIIPPO)入社。2015年4月海外支店長、17年4月九州支店長、18年4月執行役員九州支店長、20年4月同建築事業副本部長海外事業副本部長、22年4月常務執行役員海外事業本部長建築事業副本部長、5月から現職。趣味は鉄道飛行機、ウォーキング、落語や音楽鑑賞、コンピュータなど多彩。北海道出身。62年6月25日生まれ、60歳。